

施策評価シート

施策番号【1-1】

評価年度	令和5年度	事業実施年度	令和4年度	施策主管次長名	水野 貴行	
施策番号	1-1	施策名	安心して子どもを産み、育てられる環境にしよう		総合計画掲載頁	60~65
主担当部名	こども未来部					
関連課名	こども政策課、保育課、こども相談課、学校教育課					

1 総合計画の目標指標 PLAN & GOAL (中間値と最終目標値の確認)

取組分野	指標名	指標の定義	R5 中間値	R10 目標値
子育て支援	子育て支援に関する取り組みの市民満足度割合	「子育て支援」の取り組みに対する満足度割合(市民アンケート)	65%	70%
家庭教育	家庭教育に関する取り組みの市民満足度割合	「家庭教育」の取り組みに対する満足度割合(市民アンケート)	65%	70%
地域で子育てを支える環境	地域で子育てを支える環境に関する取り組みの市民満足度割合	「地域で子育てを支える環境」の取り組みに対する満足度割合	65%	70%
子育て支援			R5 中間値	R10 目標値
子育て支援				
子育て支援			R5 中間値	R10 目標値
子育て支援				

2 成果指標 DO & REPLAN (実績を計上し計画値を再設定)

指標	取組分野	成果指標名	単位	R1実績	R2実績	R3実績	R4実績	R5目標
①	子育て支援	「指導・ケアが十分受けられた」と感じた産婦の割合	%	84	85	81	87	90
		対象	市内全産婦	指標設定の考え方 ネウボラの取り組みの満足度を判定する指標とするため、3・4か月児健康診査においてアンケート結果を使用する。				
				把握方法 アンケートで「指導・ケアが十分受けられた」と回答した産婦の割合				

指標	取組分野	成果指標名	単位	R1実績	R2実績	R3実績	R4実績	R5目標
②	子育て支援	保育園定員数(0~2歳児)	人	429	454	466	471	473
		対象	市内乳幼児	指標設定の考え方 待機児童解消を目指し、保育要望が増加する0~2歳児の定員数を拡充する。				
				把握方法 4月1日現在の保育園0~2歳児定員数				

指標	取組分野	成果指標名	単位	R1実績	R2実績	R3実績	R4実績	R5目標
③	家庭教育	ふれあいトライアングル推進事業参加者数	人	2,180	1,055	3,342	3,817	4,000
		対象	参加者数	指標設定の考え方 事業に参加して地域等での家庭教育のあり方を考えてもらうため、ふれあいトライアングル推進事業を実施する。				
				把握方法 推進事業への参加者数				

指標	取組分野	成果指標名	単位	R1実績	R2実績	R3実績	R4実績	R5目標
④	地域で子育てを支える環境	ファミリー・サポート・センター援助活動回数	回	2,123	1,460	1,233	1,238	2,500
		対象	援助・依頼会員	指標設定の考え方 地域で子育てを支えるファミリー・サポート事業により、子育ての手助けをしてほしい人としてくれる人を結びつけ支援の輪を作る。				
				把握方法 ファミサポの年間援助活動回数				

指標	成果指標名	単位	R1実績	R2実績	R3実績	R4実績	R5目標
⑤							
	対象		指標設定の考え方				
			把握方法				

3 施策の評価 ANALYSE & CHECK(分析・評価)

施策の分析 (現状の確認と近隣調査)					
施策の現状	<ul style="list-style-type: none"> 誰もが安心して妊娠・出産・子育てができ、一人でも多くの女性が「もう一人子どもを産み育てたい」と思えるよう、産前・産後における支援事業を推進し、妊娠期から子育て期までの「切れ目のない支援体制」の充実を図っている。 既存の保育施設の有効活用や老朽化した保育施設の大規模改修に合わせ、保育士を確保しつつ乳児の受け入れを拡大するなど、特に0~2歳児の乳幼児の定員数を拡充する対策により待機児童が発生していない。 近年、家庭や地域の教育力の低下や近隣住民間の連帯意識の希薄化が進んでおり、家庭教育の重要性が高まっていることから、家庭・学校・地域の連携によるふれあいトライアングル事業を継続的に実施するため、市内小学校の家庭教育推進協議会に対し、補助金の交付を行っている。 				
成果向上に向けての市民と行政の役割分担	<table border="1"> <tr> <td>市民</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 子どもが健やかに育つように地域との関わりを深める。 家庭教育を担う保護者・家庭が、家庭教育の重要性を理解し、知識を深め、地域全体で家庭教育力の向上に取り組む。 地域で子育てを支えるファミリーサポート事業の仕組みを理解し、子育て中の家庭を支援する。 </td> </tr> <tr> <td>行政</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 妊産婦に対する相談への対応、支援を実施し、産前・産後ケア体制の充実を図る。 地域の家庭教育力を育むために、知識を深める機会の提供を支援しつつ、地域における実践活動の支援を行う。 また、教育や家庭に関する様々な不安や悩みに対する相談支援体制を整備する。 ファミリーサポート事業について知ってもらうため、ホームページ等を活用してPRを行い、援助会員を増やすことに努める。 </td> </tr> </table>	市民	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが健やかに育つように地域との関わりを深める。 家庭教育を担う保護者・家庭が、家庭教育の重要性を理解し、知識を深め、地域全体で家庭教育力の向上に取り組む。 地域で子育てを支えるファミリーサポート事業の仕組みを理解し、子育て中の家庭を支援する。 	行政	<ul style="list-style-type: none"> 妊産婦に対する相談への対応、支援を実施し、産前・産後ケア体制の充実を図る。 地域の家庭教育力を育むために、知識を深める機会の提供を支援しつつ、地域における実践活動の支援を行う。 また、教育や家庭に関する様々な不安や悩みに対する相談支援体制を整備する。 ファミリーサポート事業について知ってもらうため、ホームページ等を活用してPRを行い、援助会員を増やすことに努める。
市民	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが健やかに育つように地域との関わりを深める。 家庭教育を担う保護者・家庭が、家庭教育の重要性を理解し、知識を深め、地域全体で家庭教育力の向上に取り組む。 地域で子育てを支えるファミリーサポート事業の仕組みを理解し、子育て中の家庭を支援する。 				
行政	<ul style="list-style-type: none"> 妊産婦に対する相談への対応、支援を実施し、産前・産後ケア体制の充実を図る。 地域の家庭教育力を育むために、知識を深める機会の提供を支援しつつ、地域における実践活動の支援を行う。 また、教育や家庭に関する様々な不安や悩みに対する相談支援体制を整備する。 ファミリーサポート事業について知ってもらうため、ホームページ等を活用してPRを行い、援助会員を増やすことに努める。 				
近隣市町との比較	<ul style="list-style-type: none"> ホームヘルプ事業を産前(妊娠中)から利用できる県内自治体は、岡崎市・安城市・一宮市・あま市・長久手市・小牧市・清須市の7市である。 令和4年度(4月1日時点)の待機児童の現状は、本市においては0人、碧南市、刈谷市、安城市、豊田市、西尾市、知立市、高浜市、日進市、長久手市及び東郷町については0人、岡崎市は43人という状況である。 近隣自治体でも、ふれあいトライアングル推進事業のような活動はあるが、市内全ての小学校で取り組んでいるのは本市のみである。 				

施策の評価 (活動の振り返りと課題の明確化)	
令和3年度以前の活動	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度から利用者支援事業、産前・産後サポート事業、産後ホームヘルプ事業を実施し、平成30年度から産後ケア事業を開始した。 老朽化した保育施設の大規模改修に合わせた乳児の受入拡大、小規模保育事業所の選定や認可などを行った。 ファミサポのR4.3現在の依頼会員数は152人、援助会員数26人、両方会員数18人である。年間の利用件数は1,233件(内訳は、子どもの預かり375件、送迎858件)である。
令和4年度の活動内容	<ul style="list-style-type: none"> 多胎妊婦の健康診査受診票の5枚追加交付を開始した。 出産予定日を過ぎて受診した妊婦健康診査の費用助成を行った。 なかよし保育園を民営化するとともに、小規模保育園の定員を7人増員し、乳児枠の拡大をした。 10月から試行として、2歳児の育児休業取得に伴う退園基準の見直しを行い、継続通園できる制度を実施した。 小中学校において開催された家庭教育学級、思春期家庭教育講座を支援するとともに、ふれあいトライアングル推進事業の活動に対し補助を実施した。また、学びの森を中心とした教育相談体制において適切な支援をコーディネートした。 ファミサポのR5.3現在の依頼会員数は157人、援助会員数33人、両方会員数16人である。年間利用件数は1,238件(内訳は、子どもの預かり326件、送迎912件)である。 病児保育事業を市民病院の併設施設で開始し、当該施設で病児、病後児の預かりが可能となった。
積み残し課題等	<ul style="list-style-type: none"> 生後3か月以降に医療機関で産後ケアを希望する場合、受入が困難なケースもあり、今後の対策についての検討が必要である。 隠れ待機児童の解消(保育園:0才から2才まで、及びよつば、ふたば)。 0歳児及び1歳児の母親の育児休業取得に伴う退園について、継続通園できるよう制度の見直しを行う。 家庭教育に関する学習機会があっても参加しない・できない保護者へのアプローチの工夫や、不登校や子どもの発達など様々な問題を抱える家庭を個別に支援するための相談支援体制の充実が必要となっている。 市民病院の併設施設で病児保育事業を開始したが利用者が少ないため、認知度や利用方法の検討が必要である。

4 活動計画 ACTION & PLAN(目標を達成するために起こす行動)

令和5年度以降の施策目標達成に向けての取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 「みよし市版ネウボラ」を推進することで、安心して子どもを産み、育てることができる「切れ目のない子育て支援」を継続的に行う。 みよし市保育園個別施設計画に伴う施設整備に合わせ、保育室を整備するなど受入定員数の増を図るとともに、公立保育園の民営化(城山保育園の移転新築)、民間事業者を支援する方法で保育士の人材確保を行い、隠れ待機児童解消に努める。 0歳~1歳児の母親の育児休業取得に伴う退園について、継続通園できるよう制度の拡大に努める。 よつば、ふたばの児童発達支援センター化を行う。 次代を担う子どもたちの健やかな成長を地域社会全体の問題として捉え、家庭、学校、地域の連携によるふれあいトライアングル推進事業を引き続き実施するとともに、家庭の教育力向上のための学習機会として家庭教育学級等の開催を支援していく。また、個別の相談ケースに対応するための相談支援体制の充実や、家庭教育に役立つ情報を積極的に発信していく。 ファミサポの援助活動回数を増加し、会員の依頼に対して援助ができる支援体制を整える。
施策目標達成に向けての令和5年度の活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ホームヘルプ事業を産前(妊娠中)から利用できる体制を整える。 産後ケア実施医療機関を追加し、助産院の訪問型を利用可能とする。 生後3か月以降の乳児を受入可能な産後ケア実施医療機関を、近隣市町の実施状況を参考にしながら利用可能医療機関の追加を検討する。 3歳未満児の母親の育児休業取得に伴う退園について、制度の拡大を検討する。 待機児童解消のため、城山保育園の早期移転開園、よつば、ふたばの児童発達支援センター化の検討を行う。 ふれあいトライアングル推進事業については、引き続き補助金を交付し活動を支援するとともに、家庭教育学級、思春期家庭教育講座の開催を支援する。また、相談支援体制の充実を図るため、学びの森の専門相談員を増員し、相談日数を拡大する。 ファミサポ援助会員の人数を増やすため、積極的にファミリーサポート事業のPRを実施する。